

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2025/05/02

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	33.51	0.10
JPY/THB	0.2308	-0.0028
USD/JPY	145.39	2.32
EUR/THB	37.86	0.02
EUR/USD	1.1290	-0.0038
USD/CNH	7.279	0.009
SGD/THB	25.57	0.01
AUD/THB	21.43	0.03
USD/INR	84.50	0.00
USD Index	100.25	0.78

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	1.591	0.000
10Y (THB)	1.890	0.000
5Y (USD)	3.804	0.078
10Y (USD)	4.218	0.056

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	3,222.2	-96.9
WTI (Oil)	59.24	1.03
Copper	9,206.0	81.0

Stock

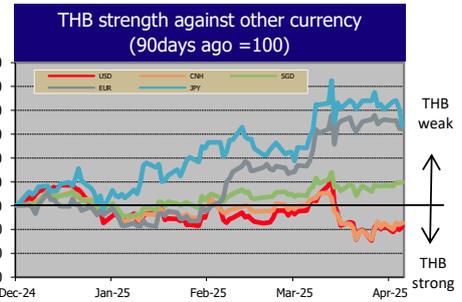
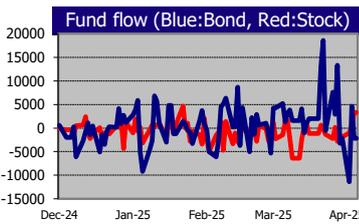
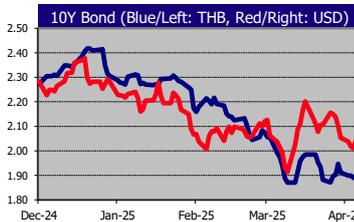
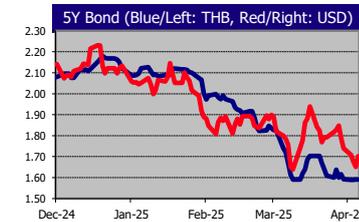
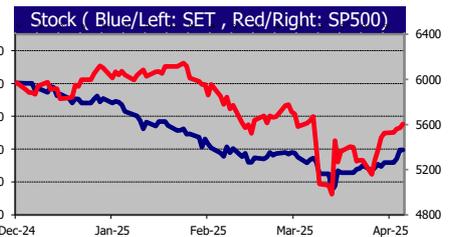
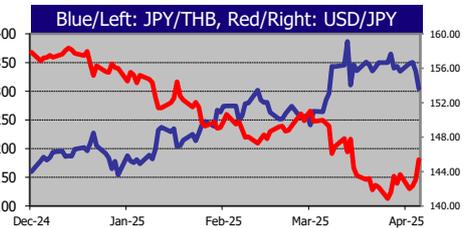
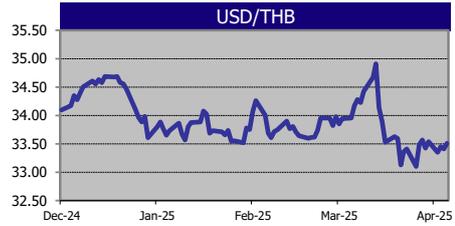
	Close	CHANGE
SET (TH)	1,197.26	0.00
NIKKEI (JP)	36,452.30	406.92
DOW (US)	40,752.96	83.60
S&P500 (US)	5,604.14	35.08
SHCOMP (CN)	3,279.03	0.00
DAX(GER)	22,496.98	0.00

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	3,319	0.0
Bond net flow	(2,186)	0.0

*compared with previous day
(Source: Bloomberg)

MIZUHO



Yesterday's market summary

●ドル/パーツ

4月30日(水)のドル/パーツはほぼ変わらず。33パーツ半ばの水準で取引を開始。序盤はタイ中銀(BOT)による金融政策委員会(MPC)の結果公表を控え、上値重く推移。33パーツ台前半の水準までじりじりと下落する展開に。バンコク時間午後、注目のMPCでは大方の予想通り金利引き下げが決定され、声明文では同国経済について下振れリスクの可能性に言及され、成長率見通しが大幅に引き下げられたこともあってか、ドル/パーツは上昇に転じ、33パーツ台半ばまで戻した。以降は同水準付近での推移が継続し、そのまま取引を終えた。
昨日のドル/パーツは小幅に上昇。アジアでは、タイを含め、多くの国が休日となる中、ドル/パーツは33パーツ台半ばの水準を維持。ただ、海外時間に発表された米4月ISM製造業景況指数が市場予想を上回る結果となり、ドル買い優勢の地合いとなると、ドル/パーツも小幅に上昇。結局33.51レベルでクローズを迎えた。

●ドル/円その他

4月30日(水)のドル/円は上昇。142円台前半の水準で取引を開始すると、日経平均株価の堅調な推移や、日米の貿易緊張緩和への期待感を背景に底堅く推移。海外時間に入り、一時は下落していた米金利が下げ幅を縮小させる動きを見せたこともあり、ドル/円はさらに上値を伸ばし、142円台後半の水準で取引を終えた。
昨日のドル/円は大きく上昇。注目の日銀政策決定会合では、市場のコンセンサス通り金利据え置きが決定されたものの、物価見通しが引き下げられたこと等を背景に円売りが強まり、144円台前半まで上昇。その後、海外時間に発表された米経済指標が市場予想対比上振れたことを受け、145円台半ばまで上値を伸ばし、145.39レベルで引けた。

Bangkok Dealer's Eye

昨日行われた日銀金融政策決定会合においては、市場の大方の予想通り政策金利の据え置きが決定された。日銀からの情報発信については総じてハト派的だったと受け止められ、円安が進展。米国的好調な経済指標の結果も追い風となり、ドル/円は145円台まで円安が進展し、G10通貨や他のアジア通貨と比較しても円の下落が目立った一日となった。
ハト派的と受け止められた背景には、展望レポートにおいて経済物価見通しが下方修正されたことに加え、インフレ目標達成時期が後ろ倒しとなったことがあげられる。足元で米通商政策等、不確実性が高まる中において一旦は見通しを引き下げ、ある程度の見通しが効くようになった後に再度修正を行う可能性に注意したい。いずれにせよ、植田日銀総裁は足元の実質金利の低さを強調しつつ、引き続き利上げ路線にあることを示唆している。
2回目となる日米関税交渉においても、今朝時点では為替に関する議論はなかったと報道されており、円高への警戒感は後退している状況。しばらくは円買い持ちポジションが解消されるに連れた円安トレンドが継続するか。(綱島)